

授業科目 看護学特論Ⅱ	科目概要・形式 2単位 30時間(15コマ) 講義科目	配当年次 博士前期1年次 後期開講	オンライン参加 ☑・不可 (下記7参照)
科目責任者	福井 幸子		
担当者	福井 幸子、蝦名 智子、小野 恵子、角濱 春美、小池 祥太郎、佐藤 愛、清水 健史、 新改 法子、谷川 涼子、出貝 裕子、鳴井 ひろみ、村上 眞須美、古川照美、千葉敦子		
1. 科目のねらい・目標			
<ねらい>			
看護の対象が抱えるニーズに対する看護援助、および看護理論の開発と確立について探究する。			
<目標>			
1. 看護の対象が抱える問題やニーズに対して包括的な支援を提供するための援助方法と理論について探究する。			
2. 看護の対象が抱える問題やニーズへの対応について科学的・理論的根拠に基づいて分析し、問題解決の方策を検討する。			
2. 授業計画・内容			
*この科目は選択した科目担当者が担当します。			
【福井幸子】			
国内外のガイドラインにある理論的根拠等から得られた包括的な問題解決方法を臨床の現場と照合して課題を明らかにし、有効な看護技術や看護ケアシステム確立のための方法を探究する。			
【蝦名 智子】			
周産期にある女性とその家族が抱える身体的および心理・社会・発達的問題に対して包括的な支援を提供できるための援助方法を探究する。			
【小野 恵子】			
在宅療養者・家族が抱える問題に対し、包括的な支援を提供できるための在宅看護におけるケアアセスメントの過程・展開・評価について探究し、ケアの質を高めるための在宅ケアのアウトカム評価の思考を養う			
【角濱春美】			
看護技術の実証や確立のために必要な看護研究について探究するための概念を構築するために、概念分析、または系統的レビューを行う。自らのテーマについてなにがどこまで明らかになっているのかを検討し、研究に関わる問題点を討議して深める。			
【小池 祥太郎】			
看護技術書に記載されている看護技術や臨床で実践されている看護技術の目的および効果について探究し、安全・安楽な側面から看護技術に対するクリティカルシンキング能力を養う。			
【佐藤愛】			
母性看護における対象の現状や課題について理解を深める。さらに学習した諸理論や諸概念を基盤として、効果的な看護援助のあり方を探究する。			
【清水 健史】			
精神科領域での看護援助に求められる、カウンセリング技法、援助的コミュニケーション、グループアプローチの理論を学び、効果的な精神看護の介入方法を探究する。			
【新改法子】			
感染症看護における対象の病状と課題を明らかにし、個人と集団を感染症から守るための有効な看護技術や感染予防システムを探究する。			

【出貝 裕子】

高齢者の複雑な健康障害及び生活機能を捉える能力を習得する。その上で、目標志向に立脚し療養の場の特性に応じた包括的な援助の展開方法を探究する。

【鳴井 ひろみ】

がん患者の複雑な健康問題に対して包括的な支援を提供できるための援助方法を探究する。診断・治療の原理を基に、がんの予防、早期発見、病名・予後告知、治療の選択、治療過程（End of Life Care まで）に伴う患者・家族の反応に適切に対処できるための援助方法を探究する。

【谷川 涼子】

小児看護における対象の現状や課題を明らかにし、倫理的・臨床的判断に基づいた看護を提供するための方法を探求する。

【村上真須美】

看護管理に関する研究課題について、学習した諸概念や諸理論を基盤として、関連組織や地域における演習（フィールドワーク）をもとに組織分析を行い、課題解決のための方策を検討する。

【古川 照美】

地域看護・地域保健における諸課題について、科学的・論理的根拠に基づいて分析し、課題解決につながる理論と方策を探求する。

【千葉 敦子】

産業看護の対象である労働者や組織・企業が抱える問題やニーズに対して、科学的・理論的根拠に基づいた支援を提供するための援助方法と理論について探究する。

3. 教科書、参考書

特に教科書は指定しない。各教員が資料を配布または講義中に紹介する。

4. 成績評価方法

「レポート 30%」「プレゼンテーション 40%」「授業への取り組み 30%」で評価する。

5. 受講要件

看護学特論Ⅰ履修済であること。

6. 社会人学生に対する配慮

講義日時は担当教員と相談して決められるよう配慮する。

7. その他

オンライン・オンデマンドを希望する場合は事前に担当教員に相談する。

オンラインの場合、基本としてwebex とするが zoom もありうる。

事前に担当教員と連絡をとり、課題などの指示を受けること。